

委員会報告

2011～2012年度

No.1

第 2 回

委員会名 献血・骨髄移植推進委員会

委員長名 L 佐々木 利和

開催日時	2011年 9月 5日 曜日 12時 30分 ～ 15時 30分			
開催場所	渋谷文化総合センター 大和田伝承ホール			
出席者	大石地区ガバナー		鈴木第2副地区ガバナー	
	L 佐々木 利和委員長	L 森谷 英紀 委員	L 副委員長	
	L 伊藤 雅一 副委員長	L 委員	L 委員	
	L 石井 邦博 副委員長	L 委員	L 委員	
	L 田中 壽一 副委員長	L 委員	L 委員	
	L 鈴木 智子 委員	L 委員	L 委員	
	L 工藤 章 委員	L 委員	L 委員	
	L 島田 益吉 委員	L 委員	L 委員	
	L 星野 治衛 委員	L 委員	L 委員	
	L 浦野 正美 委員			
	L 大塚 隆朗 委員			
	出席オブザーバー			
		(財)骨髄移植推進財団 大久保英彦様		
次 第	司会・進行 L			
	1	ガバナー挨拶（委員長挨拶）		
	2	前回議事録確認		
	3	キャビネット報告(担当副幹事)		
	4	審 議 ― 別紙議題による ―		
	5	日程確認・調整		
	6	次回開催確認		
議 題	審議経過事項の概要			
	今回は、『友情 ～秋桜のバラード～』鑑賞の為、審議等は行なわなかった。			
	鑑賞を行なった『友情 ～秋桜のバラード～』については、“審議経過事項の概要”の通り。			
次回開催日時 場所	2011年10月3日月曜日 13時30分～14時45分(15分前に集合願います 13時15分) キャビネット事務局会議室			
	作成者	L 森谷 英紀		

議 題	審議経過事項の概要
	北海道から東京へ転校して来た”小林あゆみ”と転校先の生徒との友情を描くドラマ。
	自宅に届いた1通の封書が、”あゆみ”本人には告げられていなかった病名を知る切っ掛けとなる。
	1通の封書とは、母が登録していた骨髄バンクからのもの・・・
	その時告げられた病名は、『白血病』
	唯一の治療法は、『骨髄移植』のみ
	闘病生活を送りながら、骨髄ドナーが見つかるのを待ち続ける。
	転校先の不良生徒”森山信一”の言動に思わず、自らが白血病であり、残り1～2年の命であることを公表してしまう。
	入退院を繰り返す”あゆみ”にクラス皆で思い出を作ろうと、三浦海岸へクラス全員で行くことを計画する。
	しかし、白血病治療の薬や治療の副作用により、髪の毛を失ってしまった”あゆみ”は外出することを拒み続ける。
	そんな”あゆみ”の心を開いたのは、クラスメイトの温かい心だった。
	既に、余命数カ月となっていた”あゆみ”と共にクラスメイト全員が三浦海岸へと行くことになった。
	三浦海岸に到着して間もなく、クラスメイトが何やら相談を始めた。
	その内容を聞かされることなく、”あゆみ”を残して、クラスの皆は町へと消えてしまった。
	夕方まで、たった一人残された”あゆみ”のもとにクラスメイトが帰って来た。
	全員、麦わら帽子を被り、何時にもない満面の笑みで”あゆみ”を囲う。
	”信一”の合図で全員の帽子が取られると・・・
	全員が髪の毛を剃り、丸坊主になっていた。
	治療の副作用で髪の毛が抜け落ちた”あゆみ”を励ます行動であった。
	『あゆみの髪の毛が生えてくるまで、みんな丸坊主。みんな一緒だ』と・・・
	クラスメイトの温かい友情に触れることが出来た。
	秋桜が咲く頃、病状が悪化してしまう。
	ドナーを見つけることが出来ず、闘病生活に終止符を打つことになってしまった。
	この舞台が訴えているのは、
	命の大切さ、生きることの素晴らしさ、友情の尊さ、本当の勇氣とは・・・
	ドナーが見つからず、多くの命が絶たれていること。
	私たちに出来ることを考えさせられるとても印象的な舞台でした。